

# 「2<sup>nd</sup> International Seminar on Heat Transfer and Fluid Flow」報告

国際伝熱翌日の8月16日、化学工学会熱工学部会・エネルギー部会、機械学会関西支部気液二相流技術懇話会との共催で同志社大学寒梅館にて表記セミナーを企画・開催した。

プログラムは以下の通りで、国際伝熱の参加者を中心に国外3名国内2名、合計5名の講師を招き講演いただいた。会は総勢49名の方のご協力のもと成功裏に終了することができたことを報告させていただくとともに、すべての関係者に感謝いたします。

1. Synchronized and coherent multiple droplet impingements for enhanced spray cooling

Prof. J. L. Alvarado Texas A & M University, USA

2. Is "vapor explosion" disaster? No, quenching method, if you control it.

Dr. M. Furuya CRIEPI, Japan

3. Unsteady character of "spoke pattern" in the melt during growth of single crystals by Bridgman and Czochralski methods - JAN CZOCHRALSKI POLISH SCIENTIST

Prof. J. Szmyd AGH University of Science and Technology, Poland

4. Forced flow and heat transfer of a phase change material slurry in mini-tubes

Prof. P. Zhang Shanghai Jiao Tong University, China

5. Contribution of heat transfer technology on thermochemical energy storage

Prof. Y. Kato Tokyo Institute of Technology, Japan

講演内容は「相変化」をキーワードとし、スプレークーリング、蒸気爆発利用の材料生成、結晶生成における対流パターン、スラリー蓄熱材によるエネルギー対策、熱化学を用いた熱利用に関して話題提供をいただいた。講演では、実利用展開での問題、蒸気爆発実験の詳細、Czochralskiの生涯からEUROTHERMに絡めたKrakówの紹介、環境問題に対する激論、HV/EV展開における自動車業界での問題など、周辺を含めて門外漢でも興味を持てる話題であり、非常にフランクな雰囲気の中活発な討論がもてた。もっとも熱弁を奮っていただいた分、時間が想像以上に押し、かなりのハードスケジュールとなった点はこの場をお借りしてお詫びしたい。

また、今回のセミナーは五山送り火を鑑賞いただくことも目的の一つであり、約5時間の講演後、京都の夏を感じさせるお弁当をとっていただき、8時からの点火に臨む計画を立てた。当日京都は、会場一階のエレベータホールも浸水する豪雨となり、セミナー中も携帯から警報音が鳴り響く状況で、送り火の実施そのものも危ぶまれたが、幸いにも送り火中は弱まった雨の中視界が開けた。会場の制約でアルコール片手にとはいかなかったが予定通り送り火を十分に鑑賞いただくことができ、日本の晩夏の風情を楽しんでいただけたものと思う。



講演風景(左よりプログラム順で掲載)



講演室内風景



大文字